

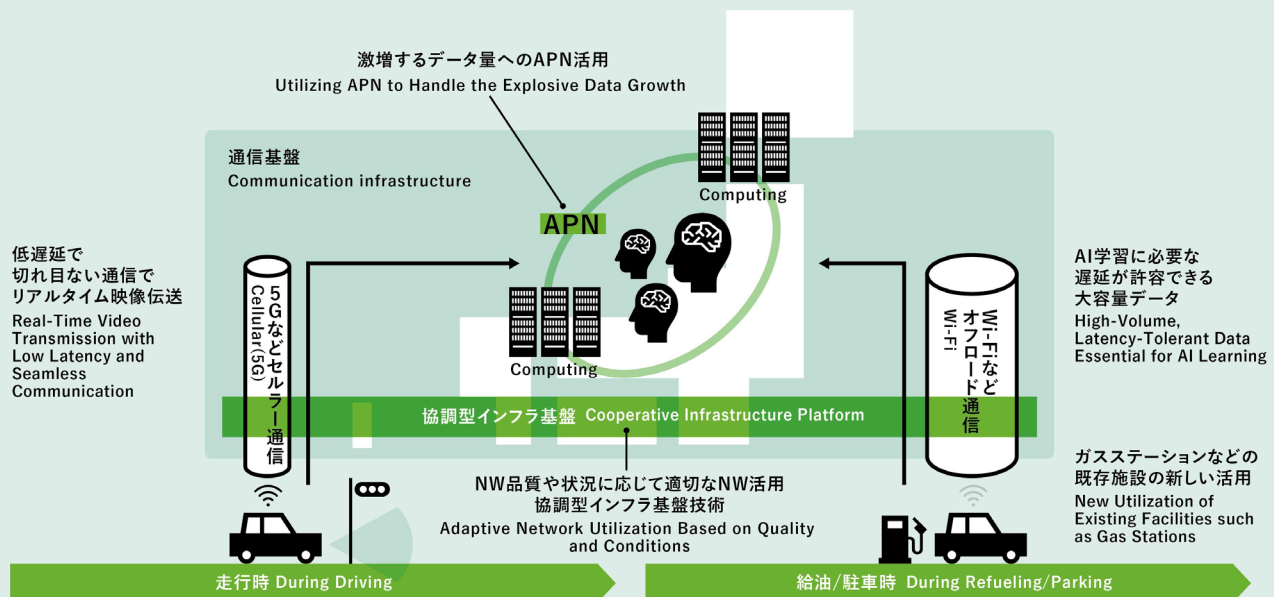
リアルタイムデータ伝送と大容量データの経済的な伝送の両立を実現します モビリティAIを支える通信基盤

背景 – 技術課題

安全運転支援の高度化に向けては大容量の車両ビッグデータを効率的に収集、処理およびAI学習することが必要となりますが、従来のセルラー通信のみを用いた方式では、帯域制約などの影響でリアルタイムデータを伝送しつつ大容量データを経済的に伝送することが困難です。

モビリティAIを支える通信基盤

Communications Infrastructures to Supports Mobility AI



研究目標 – 成果

協調型インフラ基盤技術の活用により、複数無線を組み合わせたマルチパス制御およびQoS制御を行うことで、車両ビッグデータを効率的に収集、処理およびAI学習可能なモビリティAIを支える通信基盤を実現します。

技術ポイント

01 要素技術

車両データの特性（遅延要件やデータ量）および通信回線の品質に応じて、複数の無線ネットワーク（セルラー／Wi-Fi）を動的に制御し、低遅延が求められるデータと遅延が許容できる大容量データを効率的に伝送するマルチパス制御およびQoS制御技術

02 市中技術差異点

動的なマルチパス制御およびQoS制御による、リアルタイムデータ伝送と大容量データの経済的な伝送の両立

利用シーン 交通・運輸

R&Dフェーズ ビジネス展開

【出展企業】
NTT株式会社 IOWN総合イノベーションセンタ

【社外連携先】
AECC (Automotive Edge Computing Consortium)

【問い合わせ先】
IOWN プロダクトデザインセンタ

【関連Link】